

ふれあいウォークラリー

教科・領域 特別活動

山口市立白石小学校全学年

キャリア教育の観点

本校ではキャリア教育を「小学校・中学校の教育活動全体を系統化できる『生き方教育』である」と考えており、「ふれあいウォークラリー」も生き方教育の観点から次のように意義付けています。

① 仕事に対する思いを直接聞く活動を通して、「働く人の生き方へのあこがれ」を感じる機会にするとともに、これからの自分自身のあり方を、社会生活と関連付けて考える力を育む。

② 異学年での協力的な活動を通して、高学年児童のリーダーシップを発揮する機会にするとともに、その姿を見た低・中学年児童が「高学年へのあこがれ」を感じる機会にもする。

「ふれあいウォークラリー」は、全学年数名ずつでグループ構成した「縦割り班」で協力しながら、校区内の様々なポイントにおける課題を解決していく活動です。ポイントの中には、「地域で働く人へのインタビュー」という課題を設定しています。

【人間関係形成・社会形成能力】【キャリアプランニング能力】

「ふれあいウォークラリー」の概要

本校の校区には、県政・市政の中核的機関や官公署が多く、県立山口図書館、県立美術館、県立山口博物館などの文化施設が集中している。また、山口市中心商店街や、大内氏・明治維新関連の遺跡旧跡も各所にあり、鴻ノ峰や亀山、一の坂川や五十鈴川等の自然環境にも恵まれている。

本校では、こうした地域環境の特徴を、様々な教育活動において活用している。中でも、特別活動として取り組んでいる活動の一つが、全校児童参加による「ふれあいウォークラリー」である。

これは、学校周辺に多数設置されたポイントを、54の縦割り班（全学年数名ずつで構成）で進みながら課題にチャレンジしていく活動である。進むポイント順は、6年生を中心に事前に話し合っ決定し、すべての班が異なるコースを進むようにしている。

各班が取り組むポイントでの活動は、働く人へのインタビュー、地域に関するクイズ、自然散策課題などを設定した。また、予定時刻に帰校することや行動面も活動目標にし、「勝手に他のところに行かず、班でまとまって行動できた。」「けんかしたりさわいだりなどせずに、みんなが楽しく活動できた。」などについても、引率者が評価するルールにした。

インタビュー活動の設定

インタビューポイントでは、様々な立場で働いている方の仕事場へ出かけ、ある決められたテーマでのインタビューをすることにした。

「インタビューの相手」としては、山口市中心商店街などの店舗が27箇所、その他に、幼稚園2箇所、県

立博物館・地域交流センター・テレビ局・安全パトロール・地域の消防団を各1箇所設定した。各班この中から2箇所を選んで、質問に行く。

「インタビューの内容」として、基本的な質問例を事前に子どもに示した。例えば、商店街のお店に対しての基本的な質問は、「このお店は好きですか。それは、なぜですか。」「このお店に来られるお客さんのことが、好きですか。なぜですか。」とした。

このような基本的質問例を示したのは、本校キャリア教育としてのねらいを込めているからである。本校のキャリア教育では「あこがれ」をキーワードの一つにしている。その「あこがれ」を抱かせるためには、相手の方に、仕事に対する熱意や志などを語っていただく必要があると考えたのである。

インタビュー活動の実際

子どもたちは、インタビューポイントへ到着すると、仕事中の店舗等へ入り、挨拶して質問の許可をもらってから質問を始める。教えていただいたことは、質問中にメモしたり、その場を出てからメモしたりしていた。質問に答えるだけでなく、仕事内容や店内を詳しく紹介してくださるところもあった。最後はきちんとお礼を伝えて、インタビューを終える。

教えていただいたこととして、次のようなメモを記述していた。

○商店街等の店舗

「仕事のやりがいは、よろこんだかおを見られること。そう業は明治35年。いろんなとけいがある。明治43年にできた分銅式大時計もある。白小出身。サビエルの時計も大きい。やけたときもある。」

「こねたりまぜたりしている（きかい）・・・その日の朝にしこみ約7:00 形は手であまりいっぱい作らない 約12しゅるい」

「じゅうぎょういんが仲が良い。きものが好きで、よろこんでもらえる。」

「人とふれ合うことがたのしい。商店街ではたらく人は人と接するのがすきらしい。」

○幼稚園

「みんなが大きくなって、また元気に会えるのがとてもうれしい。」

○消防団

「消防しょと力をあわせる。コンクリートでできた箱40トン火事が起きたときに助けられる水。白石地区10ヶ所いざというときに、地区のために。」

子どものお礼・感想

活動後には、インタビュー相手へお礼の手紙を書いた。子どもたちは、仕事の様子や働く思いに触れることができた喜びなどを記述



していた。

また、日記や作文にも、素直な思いが表れていた。

「昨年は、6年生についていっただけで、ぼくたちはあまり下級生のお世話をしていなかったけど、今年は、ぼくたちがみんなをお世話しなくてはいけなかった。『2列に並んで』とか『白線の中を歩いて』と言うだけで、へとへとだった。6年生の大変さがわかった。」(6年)

「ぼくたちの班の1年生は体力がまだないので、たいへんでした。その時助けてくれたのが、副班長のTさんと4年生のY君でした。道に迷ったとき教えてくれたのがY君で、Tさんは後ろでみんなをまとめてくれたり、質問の時メモを取ってくれたり、サポートしてくれました。」(6年)

「O呉服店には、きれいなゆかたや着物がたくさんあり、とてもすてきでした。どうして、こんなすてきなお店に気づかなかったのだろうと思ったほどです。」(6年)

「白石は、自然もいっぱい、いいところだと改めて思いました。昔は知らなかった6年生の大変さを知ることができたし、分からなかった道もおぼえられて、とてもよい勉強になったと思います。」(6年)

「6年生を見ていると、しっかり1年生の手をにぎっていて、あいさつもお手本になるようなあいさつでかっこよかったです。ぼくも、そんな6年生になりたいです。」(5年)

成果・課題

子どもたちは、お店や施設でのインタビューという直接的な関わりを通して、働く人の誇りや細かい気遣い、働く姿のかっこよさなどに気づき、「あこがれ」を感じることができた。こうした「あこがれ」は、これからの自分自身の「生き方」を、社会生活とつなげて考えていく力となりうる。

また、縦割り班での課題解決を通して、下級生は、みんなをリードする上級生のたくましさや優しい気配りに「あこがれ」をもつことができた。6年生は、昨年の6年生の頑張りを肌で感じ、自分も頑張ろうという気持ちになった。子どもたちのこうした姿から、様々な他者とのつながりの中で自分の「生き方」を考える機会になったといえる。

以上のような成果がさらに発揮されるためには、子どもたちの主体的で多様な活動を引き出すための支援が課題だといえる。お店等の訪問時に、基本的な質問だけで終わるのではなく、自主的な質問や気づき、体験的な活動や協力的な活動などを引き出すための支援を工夫していきたい。

全体計画との関係

本校では、白石中学校と連携し、9年間を見通した「白石小学校・白石中学校キャリア教育学習系統表」を作成している。「ふれあいウォークラリー」は、小学校における「人間関係形成・社会形成能力」「キャリアプランニング能力」を育むための重点的な活動として位置付けている。